

## 第 147 回 東葛しぜん観察会

### 親子で体験！ しぜんあそび

長谷川依子（松戸市）

日 時：2018 年 5 月 6 日（日）10～12 時 天気：晴

場 所：21 世紀の森と広場（松戸市）

参加者：大人 10 名、子ども 10 名、指導員 15 名

担当指導員：長谷川 渋谷 川瀬

当会では初の試みとして、幼児～小学生の親子対象の自然遊びを行った。季節の良いGWに企画したが、公園主催の子どもイベントが目白押しで予想に反し申込みが少なく前途多難。若い人向けにメールのみの受付としたが、迷惑メールに振り分けられたり、即！返信と連日スマホを何度も確かめる必要があり、想定外に手間がかかる。当日キャンセルも多いと予想していたが、前日のご案内確認メールに返信あるも体調を崩したりドタキャンで減り、当日お声掛けしながらチラシを配って参加者を募った。

私の担当は、急きょ予定より幼い人の班（0、1、2、4 歳）。集中して楽しんで貰うのは難しいが、自然を題材とするわらべうたに助けられた。♪たんぽぽ たんぽぽ むこうやまへ とんでいけ～♪と唱えながらタンポポの綿毛飛ばし。1歳児は吹くのも大変でジシバリの綿毛に変更。サイズぴったりでフ～ッと飛んだ。タンポポ笛も幼児には難しく、ママ達とプーピー鳴らして遊ぶ。自然発生的に草相撲が始まったが、オオバコに囚われる大人に反し、柔軟な子どもは強そうなイネ科の草を選び、笑いながら真剣に私との勝負に燃えた。シロツメクサの輪つかの魔法や、ヤブニンジンのワッペン、♪あしあしあひる～♪で親子遊びをした後、色探しで花を見つけ、白黒市松模様の布に並べる遊び。幼い人は飽きるまでは粘り強いので、布は綺麗な花やサクラの実等で埋まりアートになった。直にテントウムシやバッタが見つかると虫観察会に突入。「虫をこんなに近くで見たり触ったことは生まれて初めて」ママの仰る2歳児は、いつまでも手にしたカップのバッタを見つめていた。シロツメクサの時計は、ベテラン指導員のお孫ちゃん（4歳）が、2歳児ママに上手に教えてさしあげる。さすが感心！感心！途中バギーの赤ちゃんが大泣きすると上の子もママ、ママ～！になるし、おやつ＆母乳タイムもあり、日陰や日向を行き来しながらのんびり進む。♪さよならあんころもち またきなこ♪笑顔で無事に終わったが、すっかり感想等の聞き取りを忘れてしまった！

たっぷりあって欲しい幼児期の自然体験は、楽しいだけでなく心と脳の発達に大きく影響するそうだ。心のままに楽しそうに駆け回る幼い人のパワーとモグモグタイムのエネルギーに、予想はしていても臨機応変な対応が上手くいかず反省至極だが、今後の叩き台として頂けるなら良しとしようと思う。兎にも角にも、趣旨を理解して参加頂いた多くの指導員の皆さんのご協力に感謝いたします。

4歳の坊やは 時計作りの先生

